

わが職場

当社は、昭和36年に親会社の富士鋼材(株)の鋼材加工・倉庫部門として高松市朝日町において泉鋼業株式会社として設立し、昭和41年よりLPGタンカー用高压タンクの製造を開始しました。

平成元年に世界初の常温加圧式双胴型の特殊圧力タンクの製造に成功し、平成15年には世界最大容積11千 m^3 を誇る常温加圧式タンクを、板厚60mm近くの調質高張力鋼材を使用して製造しました。燃料用LPGばかりでなく、石油化学製品原料としての各種液化ケミカルガスを輸送するための中圧低温式として、平成18年にマイナス10.4℃対応のエチレン船タンク、平成21年に高ニッケル鋼を材料とするタンクを製造し、平成24年にアルミニウム合金を素材とするタンク

の製造実験を行うなどレベルに対応して常温加圧、低温中圧などを実現する独自の高度な製造技術を發揮しています。

更に、今後の需要が期待されるLPG船用タンク(マイナス16.3℃)の設計概念承認を取得しており、試作品を製造するなど受注準備を整えています。国内では、ほぼ唯一のメーカーとして、これまでの建造実績は380隻を超え、内航船におけるシェアは80%、海外でも常温加圧式タンクプラントに関しておよそ50%を占めています。

また、船舶用タンク製造にて培われた技術・設備をベースに橋梁・水門等の土木建造物、建築分野の各種スチール製品にも業務拡大しております。

当社の安全衛生への取り組みは、大型の鋼構造物製品の吊荷運搬作業及び高所作業によって引き起こす「クレーン玉掛の災

害」、「墜落転落の災害」の防止を重点防止課題に位置づけ、同種災害は重篤災害となる恐れがあるため、「災害はあつてはならない」との決意で活動の展開を進めております。製品は、受注生産で大型の製品であるため、見落としや判断ミスなどの不安全行動及び職場環境・機械設備などの不安全状態は大怪我に結びつくので、毎朝の朝礼ではKYを実施し、安全ポイントを具体的に説明・指示することに重点を置き、ヒヤリハットの摘出改善リスクアセスメントによる作業方法・作業手順の見直しを行い、年間無災害の目標を達成できるよう日々安全衛生活動に取り組んでいます。

泉鋼業株式会社

総務課 藤内隆行